新指導要領下における教科書を中心とした指導実践例
～指導と評価の一体化を目指して～

東村山市立東村山第一中学校
主任教諭　山内 晶子

1　はじめに

今年度から新学習指導要領の導入に伴い、学習評価の改定がなされました。観点別評価もこれまでの 4 観点から 3 観点に整理され、学習活動をどのような観点で評価するかについて、新しい枠組みと視点が必要となりました。また、GIGA スクール構想に伴うタブレット等の導入時期も重なり、この 1 学期間、現場の先生方は、日々の授業準備と並行しながら、新しい学びに対応すべく、よりより指導実践を目指してお忙しく奔走されていたのではないでしょうか。

私自身も慌ただしく日々を過ごす中で、実践と評価を同時に行い、軌道修正を繰り返しながら、なんとか 1 学期を終えた印象です。ありがたいことに、最近の書籍や参考資料には、具体的な評価例を含めた指導例が多く示されています。それらの資料を基に、定期考査の問題の出し方を変えたり、パフォーマンステストの評価を見直したりしてきましたが、本当にそれが正しい形だったのか、現場の指導に対するフィードバックをもらうにはまだ時間がかかりそうです。また、新しいことばかりに目が行き過ぎて、これまで十分に効果を上げてきた英語教育の実践をないがしろにしてしまうのも本末転倒であると考えます。

今回ご紹介するのは、教科書を中心とした 1 学期の授業実践と評価活動です。私自身も PDCA サイクルの最中におりますので、これがベストということではなく、実践の一例としてご参考くだされば幸いです。前回の学習指導要領改訂時も、広く一定の理解が得られ均質の評価がなされるようになるまで、ある程度の時間が必要だったように感じますので、しばらくはいろいろな意味で過渡期にあると思います。この一年、現場での PCDA が実践例として議論され、それがまた現場にフィードバックされ、より評価が洗練されていくことを期待し、自分自身も研鑽に努めていきたいと思います。

2　目標と指導･評価計画

学習指導要領に示された、生徒にとって「身近なこと」「興味のあること」について「簡単な文や語句を用いて」英語でそれぞれの目標に応じた活動ができることを、全体を通しての目標としました。また、その目標を達成できるよう、日々の授業の中でスモールステップを積み重ね、レッスンゴールとなる大きめの言語活動と評価タスクを通して、それらに取り組む姿勢と、学習を通して身につけた力を、3 つの観点（知識･技能、思考力･判断力･表現力、主体的に学習に取り組む態度）に沿って評価できるよう計画しました。

(1)3 年 1 学期の目標

聞くこと	・ある程度の長さの放送やボイスメッセージを聞いて、その中から自分が必要な情報を探して、聞き取ることができる。[Take Action! Listen 1, 3] ・日常的な話題の話や会話（旅行の行き先の相談や、スピーチなど）を聞いて、重要な情報を聞き取ることができる。[Take Action! Listen 2]

話すこと ［やり取り］	・過去のできごとや自分の経験などについて、即興である程度会話をつづけることができる。［Take Action! Talk 1, 3］ ・身近な話題について、あらかじめ自分の考えを整理した上で、簡単なディスカッションができる。［Take Action! Talk 2］
話すこと ［発表］	・身近な話題について、あらかじめ自分の考えや気持ちを整理した上で、まとまりのある内容を発表することができる。［USE Speak L1, Project 1］
読むこと	・簡単な英語で書かれたコラムや記事を読んで、その大まかな内容を読み取ることができる。［Starter, USE Read L1, L2］ ・簡単な英語で書かれた物語や伝記を読んで、登場人物の心情を読み取りながら、そのあらすじをつかむことができる。［USE Read L3］
書くこと	・自分の考えや気持ちを整理して、おすすめの日本語などについてのまとまりのある紹介文を書くことができる。［USE Write L2, 3］

(2)3 年 1 学期の評価計画

学習指導要領改訂に伴い新しい評価が導入されましたが、これまでの評価を刷新するのではなく、今までやってきたことを見直し、改善することを基本としました。というのも筆者の主担当が中学 3 年生であり、これまでの学習と評価において積み重ねてきた流れがあるので、このタイミングで今までと全く異なる評価をすると、生徒も混乱し、「指導と評価の一体化」という本来の目的を達成できないと考えたからです。幸い、1、2 年時での学習内容と評価方法（定期テスト・小テスト・学期に複数回のパフォーマンステスト）を大きく変える必要はなさそうだったので、必要なものを加え、考え方が異なるものについては評価の仕方を工夫することで、これまでの学習活動と評価の枠組みを微修正し、評価計画の改善を図りました。

聞くこと　Take Action! Listen1・2 では、まとまりのある内容を聞いて概要や要点を捉えられることを目標に、また授業で扱った学習内容とパラレルな問題を定期考査で出題し、評価することにしました。

話すこと［やり取り］　身近な話題についてのショートスキットである Take Action! Talk を使って、シチュエーションを変えて即興でやり取りできることを目標にしました。特に Talk 2 でのリーズニング（理由付け）は論理的思考の第一歩であり、英語でのパラグラフライティングやディスカッションなどの基本となるので、普段の授業の中でも「どうしてそう思うのか、理由を求める」「根拠を示して説明する」というやり取りを対話の基本として取り入れるようにしました。

話すこと［発表］　教科書の活動として生徒が興味を持ちそうな題材が複数載っていたので、これらをパフォーマンステストとして 1 学期に評価することにしました。

読むこと　USE Read などまとまりのある英文を通して、概要や要点を捉えたり、段落ごとの構成を意識して読んだりすることを目標にしています。また読んだ内容について感想を伝え合ったり、意見を書いたりするなど、技能統合的な活動を取り入れ、それらを定期考査でパラレルな問題として出題し評価しました。

書くこと　教科書に生徒が興味を持ちそうな題材が載っているので、それを最終的にテストで評価できるように授業で指導する計画を立てました。

<table>
<tr><th></th><th>L</th><th>R</th><th>SI</th><th>SP</th><th>W</th></tr>
<tr><td>知技</td><td colspan="2" rowspan="2">ペーパーテスト
観察</td><td colspan="2" rowspan="2">パフォーマンステスト
観察</td><td rowspan="2">ペーパーテスト
パフォーマンス
テスト
観察</td></tr>
<tr><td>思判表</td></tr>
<tr><td>主体性</td><td colspan="5">パフォーマンステスト・リフレクションシート・観察</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">評価場面</th><th>観点</th><th>領域</th><th>内容</th></tr>
<tr><td rowspan="5">ペーパーテスト</td><td rowspan="4">定期考査
（中間･期末）

*教科書とパラレルな英文については、Teacher’s Manual⑤ワークシート Listen & Read 編の英文に加筆修正したものを主に使用しました。</td><td>知技</td><td>読む
書く</td><td>・適語選択　・適語補充　・語順整序
・英作文（対話の流れに合うよう、与えられた単語をヒントに 1 文で答える。）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">思判表</td><td>聞く</td><td>・内容理解（Take Action! Listen と*パラレルな英文を聞いて、要点を捉える問いに答える。）</td></tr>
<tr><td>読む</td><td>・内容理解（USE-Read とパラレルな英文を読んで、要点を捉える問いに答える。）</td></tr>
<tr><td>書く</td><td>英作文（知識技能の英作文とは異なり、テーマに沿ったまとまりのある内容を簡単な語句や文を使って英語で書く問題。）
出題例：
・「おすすめの日本語を紹介しよう」（USE Write L2 で学習した内容とパラレルな問題。コンテクストを与え、それに合った英文を書く。）
・Take Action! Talk とパラレルな文章を読んで文脈に合った英文を書く。
・与えられたコンテクストに合った対話を書く。
・まとまりのある英文を読んで、テーマについて自分の意見や理由を書く。
・リスニング問題で出題された英語の対話を聞いて、自分の意見と理由を書く。</td></tr>
<tr><td>小テスト</td><td>知技</td><td>聞く
読む
書く</td><td>・単語テスト（帯活動で行っているペアワークの確認テスト。1 学期中 6 回実施。）
・春休み明けテスト（ワークの基本文等、2 年生の復習テスト）
・リスニングテスト（ワーク付属テストより抜粋）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">パフォーマンステスト</td><td rowspan="3">知技
思判表
主体性</td><td>話す
(やり取り)</td><td>・ALT へのペアインタビュー</td></tr>
<tr><td>話す
(発表)</td><td>・スピーチ「好きな歌を紹介しよう」</td></tr>
<tr><td>書く</td><td>・ライティングタスク「おすすめの日本語を紹介しよう」
・ライティングタスク「ALT のインタビューレポート」
・スピーチ原稿「好きな歌を紹介しよう」</td></tr>
<tr><td rowspan="2">リフレクションシート</td><td rowspan="2">主体性</td><td>話す
(発表)</td><td>・教科書の暗唱</td></tr>
<tr><td>書く</td><td>・ライティングノート（授業で学習した英文をノートに練習する。毎回の授業の宿題として出される。）</td></tr>
<tr><td colspan="3">観察
（授業中の活動を形成的に評価）</td><td>・授業中のペアワーク・グループワークへの取り組み
・提出物への取り組み
・宿題への取り組み
・自己評価（リフレクションシートに自身の学習への取り組みを振り返って記述する）</td></tr>
</table>

3　3 年 1 学期の指導と評価

(1)指導･評価計画全体について

1 学期の指導計画として、3 つのレッスンと今年度から新しく導入された Take Action! Listen / Talk 1～3 を扱いました。それぞれのレッスンの後には USE Speak / Write での実践的なタスクがあり、また Project では身近なテーマについての Discussion がありました。教科書の構成に沿ってパフォーマンステストを行えば、３つのテストを行うことができ、1 学期の評価としては 2 回の定期テストと 3 回のパフォーマンステスト、それに小テストを加える形でバランスのよい評価ができると考えました。（実際は授業進度の関係で、教科書にはないオリジナルのパフォーマンステストを一つ行い、Project を二学期に行うよう変更しました。）

国立教育政策研究所『指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料』の書くことの評価例を見ると、これまでよりも明確に示されていることとして「実際のコミュニケーションの場面や状況を考えさせること」「特定の文法項目を提示しなくてもそれを使って表現できる技能を評価すること」が挙げられます。定期テストで多く出題されていた「日本語の意味になるように（　）に適切な英語を書きなさい。」や「絵の人物が何をしているところか現在進行形を使って書きなさい。」等の問題は、より具体的なコンテクストを与え、前後関係から生徒が判断できるような問題を作らなければならないため、改善が必要でした。

また、「コミュニケーションに対する関心・意欲・態度」の観点は「主体的に学習に取り組む態度」に変わったことにより、授業での挙手の状況や提出物だけによる判断のような、学習の一時的な側面や性格的な傾向ではなく、生徒が自らの学習を振り返り、学びに対する自己調整と粘り強く学習に取り組む姿勢を評価するように強調されました。それにより、学習の振り返りを継続的に記録するようなシートが必要となりました。これについては 3-(4)リフレクションシートの項で後述します。

(2)ペーパーテストについて

①定期考査

例）

a）これまでの定期考査を見直し、単純に日本語を与えた適語補充問題や並べ替え問題を、文脈を与えて考えさせる問題に変更しました。

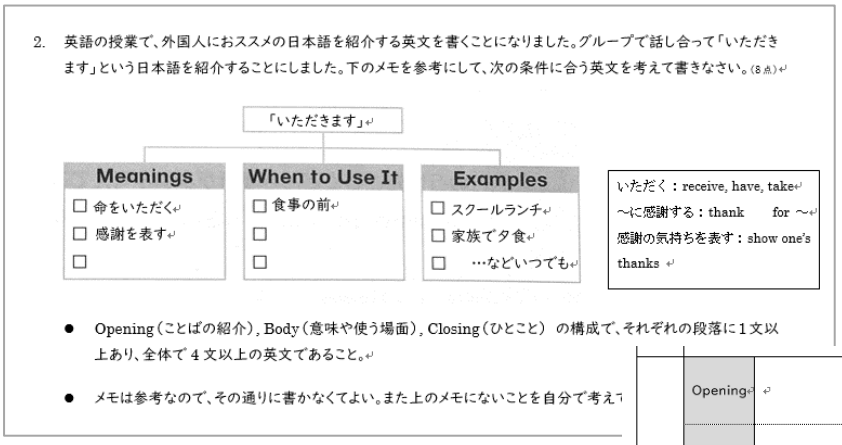
（昨年度まで）

> 次の日本文に合うように、[　　]内の語を並び替えて英文を作ったとき、3 番目と 5 番目に入る英語を記号で書きなさい。
>
> 「努力をすることは君たちにとって大切だと、私は思います。」
>
> [ア. to / イ. for / ウ. important / エ. I think / オ. it's / カ. you / キ. make an effort /.]

（今年度）

> 対話の流れに合うように[　　]内の語を並び替えて英文を作ったとき、3 番目と 5 番目に入る英語を記号で書きなさい。文頭の語も小文字で書かれているので気をつけること。
>
> サッカー部が最後の試合を終え、佐藤先生に挨拶をしています。
>
> *Shintaro:* We've just finished our last game. We really thank you for these two years.
>
> *Mr. Sato:* Good job. I'm glad that you've been practicing hard.
>
> *Taiki:* I'm sad because we lost the last game.
>
> *Mr. Sato:* I know. But it's just a result. You've got something more important.
>
> [ア. to / イ. for / ウ. important / エ. I think / オ. it's / カ. you / キ. make an effort /.]

b）まとまった量の英作文を書かせて、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の 2 つの観点から評価するタスクを課しました。



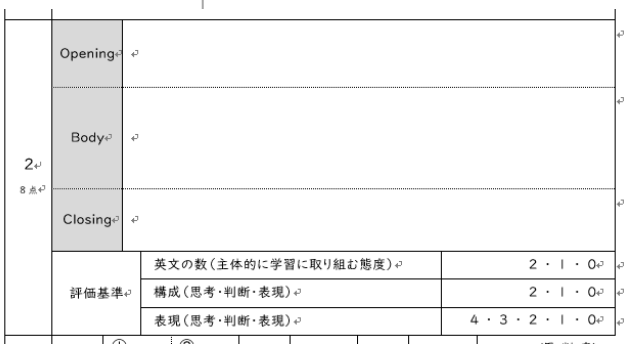
2. 英語の授業で、外国人におススメの日本語を紹介する英文を書くことになりました。グループで話し合って「いただきます」という日本語を紹介することにしました。下のメモを参考にして、次の条件に合う英文を考えて書きなさい。(8点)

「いただきます」

Meanings	When to Use It	Examples
☐ 命をいただく	☐ 食事の前	☐ スクールランチ
☐ 感謝を表す	☐	☐ 家族で夕食
☐	☐	☐ …などいつでも

いただく：receive, have, take
～に感謝する：thank　for ～
感謝の気持ちを表す：show one's thanks

- Opening（ことばの紹介）, Body（意味や使う場面）, Closing（ひとこと） の構成で、それぞれの段落に 1 文以上あり、全体で 4 文以上の英文であること。
- メモは参考なので、その通りに書かなくてよい。また上のメモにないことを自分で考えて



2 8点	Opening		
	Body		
	Closing		
	評価基準	英文の数（主体的に学習に取り組む態度）	2・1・0
		構成（思考・判断・表現）	2・1・0
		表現（思考・判断・表現）	4・3・2・1・0

評価の観点が変わり、これまでの「文法問題＝言語・文化に対する知識・理解、英作文＝表現の能力、長文・リスニング＝理解の能力」という枠組みから脱却し、新しい観点へ思考をシフトさせることに最初は戸惑いました。しかし、これまでも長文問題の中で知識を問うような問題が出せなかったり、英問英答は理解の能力なのか、表現の能力なのか…といった葛藤があったりして、悩みがないわけではありませんでした。それが「思考・判断・表現」という大きな枠組みになったことで、よりクリエイティブな出題が可能になり問題の幅が広がったのだと、ポジティブに捉えることにしました。

新しい観点で定期考査の問題を考えるとき、大まかな枠組みとして、「特定の言語材料の知識を問うもの＝知識・技能」、「これまでの言語材料を総合的に活用して答えるもの、また読んだことに対して書く・聞いたことに対して書く…といった統合的な問題＝思考・判断・表現」と捉えています。この 1 年で他の先生方の実践例から学び、テストの改善を図っていきたいと思います。

②小テスト

例）

・授業の帯活動でペアによる単語練習を行っており、授業で 4 回練習したら 5 回目にテストというルールになっています。1 セット 15 単語程度で、1 学期間で 6 回のテストを行いました。

・副教材付属のリスニングテストのうち、指導内容に即していて、かつ基準があいまいでないものを評価に加えました。例えば、答えを日本語で書かせる出題で、日本語の答え方によって正解不正解が左右されるような問題は評価から外しました。

・副教材を春休みの宿題に課し、付属テスト（副教材の出題と同様の出題）を評価に加えました。単純な文法問題は知識・技能の観点で、まとまった量の英文を読んで答える問題は、思考・判断・表現の観点で評価しました。

(3)パフォーマンステストについて

①評価規準

パフォーマンステストでは主にアウトプット活動（書くこと・話すこと 発表およびやり取り）を評価します。授業で学習したことをもとに、各単元で学習した題材や言語材料について、それらを用いて何ができるかという観点から評価をします。国立教育政策研究所「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」では、内容のまとまりごと（5 領域）の評価規準をもとに観点別に作成するとされています。ここでは 1 学期に行われたパフォーマンステストのうち、「ALT へのインタビュー＆レポーティング」の評価規準をまとめました。これは教科書には載っていないオリジナルタスクですが、移行措置として 2 年末から 3 年初めに学習した現在完了形のまとめのタスクとして設定しました。Starter、Lesson1 と学習していく中で、継続以外の用法についても、実際の言語使用場面をイメージしながら復習させたかったため、ゴールの活動として ALT に現在完了形を使ってインタビューするというタスクにしました。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと　やり取り	＜知識＞ 現在完了形の文構造、意味や働きを理解している。 ＜技能＞ ALT の続けていることや日常生活について、事実や自分の気持ちなどを整理し、現在完了形や簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身につけている。	ALT の続けていることや日常生活について後でレポートにまとめられるようインタビューするために、事実や自分の気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。	ALT の続けていることや日常生活について後でレポートにまとめられるようインタビューするために、事実や自分の気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。
書くこと	＜知識＞ 上と同じ ＜技能＞ ALT の続けていることや日常生活について、事実や自分の考えなどを、現在完了形を用いて、簡単な語句や文で正しく書く技能を身につけている。	ALT とのインタビューの内容をレポートするために、ALT の続けていることや日常生活について、事実や自分の考えなどを、現在完了形を用いて、簡単な語句や文で書いている。	ALT とのインタビューの内容をレポートするために、ALT の続けていることや日常生活について、事実や自分の考えなどを、現在完了形を用いて、簡単な語句や文で書こうとしている。

②評価課題

例）

ALT へのインタビュー＆レポーティング

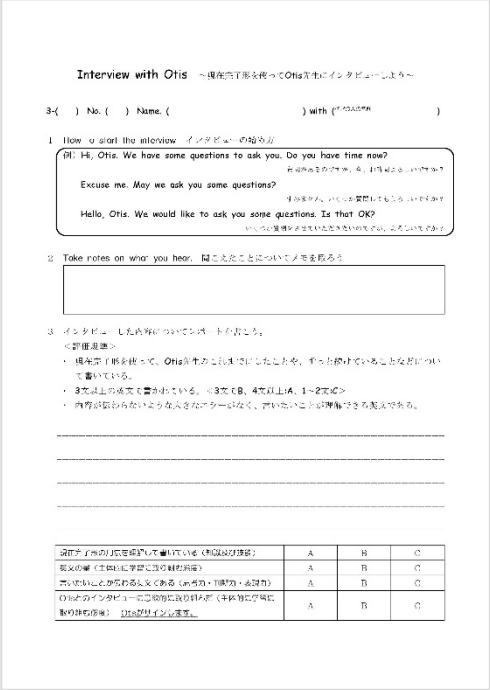
【話す】

・現在完了の復習を終えたタイミングで、ALT にペアでインタビューをし、先生が続けていることについてレポートするタスクを行いました。

・質問する内容についてはあらかじめペアで相談しておき、それ以外にも即興でやり取りをさせました。

・インタビューは、ALT の協力を得て、休み時間など授業時間外の時間帯で、各ペアの都合のいい時間に行いました。JLT は同席せず、会話の内容については評価しませんでした。あらかじめ準備した質問を、紙を見ながら聞くことができればB、それ以外にも即興でやり取りできればA、と大まかな評価を ALT にしてもらいました。それを主体的に学習に取り組む態度の観点で評価に加えました。

【書く】



Interview with Otis　～現在完了形を使ってOtis先生にインタビューしよう～

3-(　) No. (　) Name. (　　) with (　　)

1　How to start the interview　インタビューの始め方

(例) Hi, Otis. We have some questions to ask you. Do you have time now?

Excuse me. May we ask you some questions?

Hello, Otis. We would like to ask you some questions. Is that OK?

2　Take notes on what you hear.　聞こえたことについてメモを取ろう

3　インタビューした内容についてレポートを書こう。

＜評価基準＞

・現在完了形を使って、Otis先生のことについてしたことや、ずっと続けていることなどについて書いている。

・3文以上の英文で書かれている。＜3文でB、4文以上A、1～2文C＞

・内容が伝わらないような大きなエラーがなく、言いたいことが理解できる英文である。

現在完了形の形を間違えずに書いている（制限及び技能）	A	B	C
英文の量（主体的に学習に取り組む態度）	A	B	C
言いたいことがわかる英文である（内容力・伝達力・表現力）	A	B	C
Otisとのインタビューに意欽的に取り組んだか（主体的に学習に取り組む態度）　Ittoがリインタビュー	A	B	C

活動用ワークシート

・上記のペアでのインタビューに沿って、話した内容をまとめて 3 文以上の英文で書き、個人で提出させました。書いた内容について、英文の数（主体的に学習に取り組む態度)、現在完了形の正しい使用（知識・技能)、全体として意味の通る英文であるか（思考・判断・表現）の 3 つの観点から評価しました。

③評価基準（ルーブリック表）

・ALT とのインタビューに意欲的に取り組んでいる。(主体的に学習に取り組む態度)

・現在完了を含む英文を正しく書くことができる。(知識・技能)

・テーマに沿った英文で事実や自分の気持ちなどを述べており、読み手の理解を妨げる大きな誤りがない。(思考・判断・表現)

・レポートに意欲的に取り組み、十分な英文量でレポートを書いている。(主体的に学習に取り組む態度)

	A	B	C
ALT とのインタビューに意欲的に取り組んでいる〔主体的に学習に取り組む態度〕	あらかじめ準備した質問に加えて、即興でやり取りをしながらインタビューをすることができる。	あらかじめ準備した質問を ALT に聞き、その内容についてやり取りすることができる。	B の基準を満たしていない。
現在完了形を含む英文を正しく書くことができる〔知識・技能〕	正しく書けている。	現在完了形に誤りが見られるが、意味は通じる。	現在完了形に大きな誤りが見られ、意味が通じにくい。
テーマに沿った英文で事実や自分の気持ちなどを述べている〔思考・判断・表現〕	概ね正しく書けており、読み手の理解を妨げるような大きな誤りがない。	表現の一部に誤りが見られるが、全体として言いたいことが理解できる。	表現に大きな誤りが見られ、意味が通じにくい。
レポートに意欲的に取り組み、十分な英文量でレポートを書いている。〔主体的に学習に取り組む態度〕	4 文以上	3 文	2 文以下

移行措置の現在完了形を用いた年度初めのパフォーマンステストだったので、多くの生徒が A を取れるようなタスクを設定しました。英文量については、インタビューをレポートするのに決して十分な量とは言えませんが、都立高校入試の 3 文英作文を B 基準としました。実際はほとんどの生徒が 5 文以上の英文を書いていました。

パフォーマンステストでは、類似の練習を授業で十分に行って、ほとんどの生徒に A または B を与えたいものです。定期考査であまり点数が取れない生徒も、授業に一生懸命取り組めばそれがパフォーマンステストで評価され、結果として学期末の評価につながるということが分かり、授業をおろそかにすることがなくなるでしょう。また、指導計画に効果的にパフォーマンステストを組み込むことで、生徒の学習意欲をエンカレッ

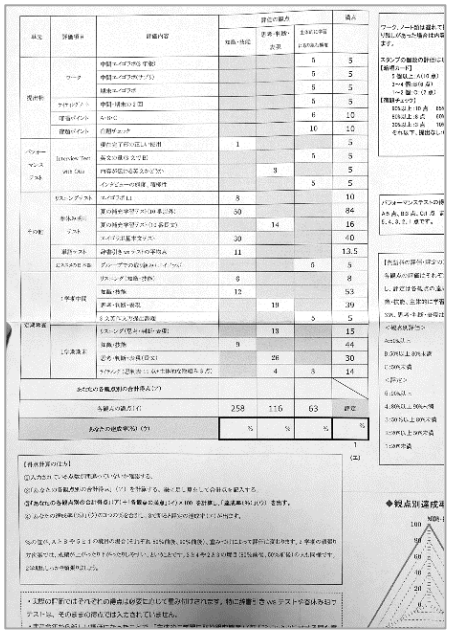
ジし、よりよく学び、学習に粘り強く取り組もうとする態度を育成することができます。指導と評価の一体化のためにも、１～２レッスンに１回のパフォーマンステストを計画するようにしています。

(4)リフレクションシートについて

リフレクションシートのねらいは、レッスンを通して自分がどのような学習の取り組みをして何ができるようになったか、また理解が不十分な部分はどこなのか等を生徒自身が振り返って、次の学習につなげることです。昨年度まではこのようなシートは作っておらず、パフォーマンステストやまとめのタスクの後に、自己評価として記録させたり、暗唱や宿題チェックのシートを別に用意してスタンプを押して評価したりしていました。しかし、①自身の学習の振り返りとして継続的な記録が必要であること、②学習に対する粘り強い取り組みと自己調整という視点を、生徒自身が持って記録する必要があること、③これまでの単純な宿題チェックや暗唱チェックの個数ではなく、それらを総合的に生徒自身の視点で振り返る必要があることから、リフレクションシート（振り返りシート）を作成し、レッスンごとに生徒に記入させることにしました。

リフレクションシート

従来の「関心・意欲・態度」の観点については「挙手の回数や毎時間ノートを取っているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭し切れていない」との問題点が指摘されており[1]、これまで行ってきた毎回の授業ごとの宿題チェックや、学期で 5 ページを目標としている暗唱チェックを、今まで通り評価に加えていいのか悩みました。しかし、先述した通り、1～2 年とこれまで続けてきた学習内容を急に変えて生徒を混乱させたくなかったこと、また毎回の復習に取り組むことも、教科書の暗唱を目指して何度も音読練習に取り組むことも、どちらも中学生の英語学習としては無駄ではないと考えたため、生徒自身が自分の学習状況の振り返りとして可視化できるようにリフレクションシートに加え、評価することにしました。


評価個票

また学期ごとに、活動ごとの観点別得点の入力された評価個票を生徒一人ひとりに配布しており、それも自身の学習の振り返りに役立っていることと思います。

---

[1] 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」平成 31 年 1 月 21 日，p. 4

4. 振り返りと今後の課題

1学期に行った学習活動と評価を振り返ってみると、指導と評価の一体化という点では一定の効果を上げることができたと思います。ただ4月のスタート時点までに十分な準備ができておらず、慌ただしい中で見切り発車した感が否めませんでした。もう少し時間をかけて準備すれば、より生徒の興味関心や実態に合った評価活動やルーブリックが作成できたと思います。今後は以下の点を具体的に改善していきたいと思います。

- Take Action Talk! を使ってパターン別の場面に応じたやり取りのテストを行う。指導直後でなく、何回かのレッスンの後に、それまでの Talk!を総合的に評価できるタスクを考えられるとよい。
- パフォーマンステストのルーブリックは、生徒に分かりやすく、教師が評価しやすい雛形を作ることで、手間をあまりかけずに持続して実施することができる。(例：項目2つのうち、2つともできればA、1つしかできなければB、両方できなければC）少人数指導を行っている学校でも同僚との共有がしやすい。
- リフレクションシートについては、今学期は記述内容によって評価を変えることはしなかった。今後の英語教育界の動向を見て、適切な評価方法を考えていきたい。

スタートして数か月でまだ手探りの実践ですが、皆さんと同じ立場で悩み、考え、模索している一教員が一例をお示しすることで、現場での議論が活性化し、中学英語教育界のよりよい指導・評価につながっていけばとの思いで寄稿させていただきました。同じ悩みを抱えている先生方の考えるきっかけとして、少しでもお役に立てれば幸いです。

Interview with Otis　～現在完了形を使ってOtis先生にインタビューしよう～

3-(　　) No. (　　) Name. (　　) with (ペアの人の名前　　)

1　How to start the interview　インタビューの始め方

例）Hi, Otis. We have some questions to ask you. Do you have time now?
質問があるのですが、今、お時間よろしいですか？

Excuse me. May we ask you some questions?
すみません。いくつか質問してもよろしいですか？

Hello, Otis. We would like to ask you some questions. Is that OK?
いくつか質問をさせていただきたいのですが、よろしいですか？

2　Take notes on what you hear.　聞こえたことについてメモを取ろう

3　インタビューした内容についてレポートを書こう。

＜評価規準＞

- 現在完了形を使って、Otis先生のこれまでにしたことや、ずっと続けていることなどについて書いている。
- 3文以上の英文で書かれている。＜3文でB、4文以上:A、1～2文:C＞
- 内容が伝わらないような大きなエラーがなく、言いたいことが理解できる英文である。

現在完了形の用法を理解して書いている（知識及び技能）	A	B	C
英文の量（主体的に学習に取り組む態度）	A	B	C
言いたいことが伝わる英文である（思考力・判断力・表現力）	A	B	C
Otisとのインタビューに意欲的に取り組んだ（主体的に学習に取り組む態度）　Otisがサインします。	A	B	C

Reflection Sheet for English Classes

Class 3- (　　) No. (　　) Name. (　　)

LESSON 1	Power of Music
新しい言語材料	現在完了（完了・継続・経験）　現在完了進行形　make A B　call A B
Can-Do	今まで続けていることを表現できる

音読	できたことに〇をしよう	授業中の音読にしっかり取り組んだ	家で10回以上音読した	シートを使ってスラスラ読める	暗唱チェック
	GET①（P.8）				
	GET②（P.10）				
	USE-Read				
	Take Action				

自主学習									
	宿題チェック	1	2	3	4	5	6	7	／
		8	9	10	11	12	13	14	

自主学習		
	エイゴラボ	A：定期的に取り組み、分からないところはそのままにせず、理解できるよう質問したり、解説を書き込んだりした。 B：自分の力で取り組んだ。間違えたところは赤で答えを書いた。 C：テスト前にまとめてやったり、答えを書き写したり、取り組みが不十分だった。
	その他の自主学習	自分で頑張ったことを書こう

学習の振り返り		
	新しい言語材料	の意味やはたらき、文法のきまりを理解することができたか
		A：人に説明できる。 B：まとめのページを読めば理解できる。 C：イマイチ理解できていない → 友達に聞く ・ 先生に聞く ・ 塾で教わる ・ 他の人(家族など)に聞く ワークなどをもう一度やる ・ とりあえず先に進む （〇をしよう）
	新しい言語材料	を使って、授業中のタスク（言語活動）の目的が達成できたか
		A：8割以上の活動でできたと思う。 B：半分くらいはできたと思う。 C：あまりできなかったと思う。 新しい言語材料を用いたレッスンタスク（スピーチやライティングなど）、Step Up Talking、ペアでの会話練習、リスニング…などに
	このレッスンでできるようになったこと、これからできるようになりたいこと	